

「モルドバドキュメンタリー2011」第4号

発行日 2011年3月7日

発行人 モルドバ復興支援協会 事務局長 沓澤正明

住所 〒651-1132 兵庫県神戸市北区南五葉3-2-35

電話 078-594-2785 Email molkorjp@ybb.ne.jp

2011年8月27日はモルドバ共和国独立20周年記念日。



タマラ・ソーコルさんのお母さんに捧ぐ（絵：侑霞）

タマラ・ソーコルさんは夫の遺産をすべて捧げてモルドバ農業の復興のためにモルドバ女性協会「農婦の会」（ツウェレンクツツァ）を設立した。タマラさんのお母さんはいつも椅子に座って迎えてくれた。ブロックを積んでタマラさんは7年かけて自分で家を建てた。お母さんはこの家で4年前に亡くなった。

むこうの赤い屋根からゆるやかな丘を降りたふもとに家があり、野の草花が生繁っている。テーブルには果物があり、お母さんが花を摘み、アヒルがたわむれ、カエルが草にゆられ、小鳥が舞っている。

山路こえてひとり行けど、そのようであることを願って…。

岡山県の「にしぎきふあ〜む」訪問

2月26日、初めて岡山県を訪問した。マスカットなどのぶどう園である。26歳の青年が迎えてくれた。モルドバのぶどう園に関心があるというので会いに行った。2時間以上話した。そのあと温室に行った。「にしぎきふあ〜む」。冬なのにそこは別世界のように温かかったし土はふっくらとしていた。モルドバの農業のことが思い出された。

次の目的地は広島だった。東広島の「モルドバ復興と学生支援の会」代表下竹恵さんを訪問し一泊した。呉市の平野さんが駆けつけてくれた。下竹さんの室内にはモルドバの子供たちが描いた大きな絵がたくさんかけられている。ここは、日本だけでもモルドバの話ばかりだ。

2001年タマラ・ソーコルさんが来日したドキュメンタリー

モルドバ女性協会「農婦の会」（ツウェレンクツツァ）会長タマラ・ソーコル女史を迎えて2001年8月11日から19日まで2000キロ日本縦断した。初公開する。

8月11日

関西国際空港にタマラ・ソーコル女史と通訳のアンドレー君を迎えた。その二人と私たち夫婦と、長男（当時高校3年）、次男（当時中学3年）計6人がワゴンに乗り込み一路北海道に向かった。北海道は私の故郷。兄弟と叔母3人といとこたちが暮らしているところである。8年ぶりの還故郷だった。舞鶴港から小樽港まで30時間フェリーに乗る。

8月12日

日本海を北上。フェリーの船内。

8月13日

朝4時に小樽港に到着。札幌駅のすぐ近くのワシントンホテルに碇博志先生（当時74歳）が駆けつけてくれた。結婚したときに札幌でお会いして以来25年ぶりの再会だった。先生は「北海道家庭学校」の理事とユネスコの役員をしておられて、私たちの国際ボランティア活動に大きな理解を示された。先生は北海道家庭学校では「難有り」と書いて「ありがとう」と読ませていると話された。モルドバは当時、旧ソ連崩壊後最も難しい時代を通過しようとしていたのでタマラさんにはとても励まし

になったと思われる。（翌年の神戸でのユネスコ大会には碇先生がお越しになるので会うことを約束していたが、神戸に帰ると忙しくなるとうとうと時期を逸した。）

そのあと午前中に、北海道大学の「スラブ研究センター」を訪問。夏休みでモルドバ専門の研究者は不在だったが図書館の職員が案内してくれた。旧ソ連時代の辞書類がおびただしく保存されていて、タマラさんはその中からモルドバの百科事典を取り出して、故郷であるレジーナというところを開いた。そこに旧ソ連時代に建設された大きな牛舎の写真があった。それを示して、タマラさんは夫の遺産を投入して2000年「農婦の会」（ツウェレンクツツァ）を設立した動機を感動しながら話し始めた。1991年旧ソ連崩壊後、欧米の金融機関が来て「融資するので農業を再建なさい」と農家の人たちが融資を受けた。その後、再建するにも金利が払えなくなり、その立派な牛舎は柱と一部の壁を残して売れるものは全部持って行かれた。そのようにして共産主義時代より悲惨な状態になった。牛舎だけでなく農地も安く買い叩かれた。モルドバの農業を守り、復興させるために「農婦の会」を設立したと叫んだ。

北大スラブ研究センターにはモルドバから毎日、新聞が送られてきていて、タマラさんは「私の記事がある」と言って大きな写真が掲載されているページを開いた。「日本に来て自分の記事が保存されていることを知って感動した」言った。

午後、上富良野町を訪問し私を育ててくれた母に挨拶した。その後叔母で農場を営んでいる安丸家を訪問した。そこは死んだ母の実家である。メロンやジャガイモ畑を視察した。70歳を超えた叔母は畑で「ロシアからお客様だよ」と大声で呼ばわった。隣の農夫からジャガイモ畑で専門的な農業の話聞いた。さらに、2人の叔母である南家と横山家を訪問した。この2人の叔母は死んだ母の妹である。横山家は中富良野で大きな農場を営んでいてタマラさんと私の家族は食後、夜遅くまで納屋でメロンの箱詰め作業を手伝った。

8月14日

早朝、中富良野農協の集配センターにメロンを納品した後ライスセンターを視察した。独身で27歳の甥がタマラさんを案内してくれた。タマラさんは「日本の農業技術をモルドバに持って行くにはあなたのような青年が必要だ。モ

ルドバのお嫁さんを差し上げる、農場も十分に提供する、だからモルドバに来なさい」と言った。

そして旭川に向かい 37 歳で母が死んだ時養子に出されて別れた実の弟と妹に会い、昼食をごちそうになった。弟は感銘していた。

フェリーのキャンセル待ちのため苫小牧港に向った。夜、フェリーに乗り込み秋田港を目ざして南下した。

8月15日

秋田港でフェリーを降り、山形県に向かった。酒井市でロシアで知り合った知人2人が待っていた。そこで地元の団体の歓迎を受け日本庭園でくつろいだあと昼食会に招待された。タマラさんはモルドバの農業が抱えている問題を提示した。1人がロシア語を通訳してくれたので農業の専門的な内容を初めてよく理解できた。私たちはアンドレー君の英語の通訳だけでは理解が不十分だったのである。

有機栽培の水田を視察した。

その後鶴岡市に向かい、代表・沓澤美喜の実家で姉に挨拶した後お墓参りをした。代表のいとこが経営している湯田川温泉旅館を姉が手配してくれたので知人2人を含む8人一緒に宿泊した。

8月16日

代表のいとこ斎藤家、叔父の鈴木家で農業を視察した。農機具、トラクター、コンバイン、草刈り機を見るとタマラさんは中古でいいからモルドバにもトラクターを1台欲しいと言いつつ出した。「それは無理だと思う」と何度も断らなければならなかった。

8月17日

鶴岡市国際交流協会を訪問。無料でメールを利用した後テーブルを借りて有機栽培の専門家に概要を聞いた。かたわらパソコンとプリンターを借りて神戸で開催する歓迎会の案内状を作成し、夕方までに発送した。知人の1人がタマラさんとアンドレー君に山形の特産品である大きなこけしをプレゼントした。そこで知人2人と別かれた。

夕方、鶴岡市を出発し小波渡という海岸で停車して夕陽が日本海の水平線に沈むのを見ていた。携帯が鳴った。2年前に三田市でたった一度だけ会ったことのある自動車解体業の社長からだった。「奥さんが海外に国際ボランティア

に行っている沓澤さんか」と言う。「会いたい」と言っている。私は思わず「ばんざい、ばんざい」をして代表とタマラさんの中古のトラクターが手にはいるかもしれないと言った。

後で知ったが、そのお方は在日だった。2年前にたった一度しか会ったことがないのに社長は真剣だった。とても不思議な電話だった。夕陽が沈むと、新潟を通過して一路東京へ向かい、東京の手前で車中泊した。

8月18日

東京を通過して浜松に着いた。モルドバと一緒に活動していた人に会いうなぎを食べた。民宿で一泊した。

8月19日

神戸に向かう途中、電話を下さった三田市の社長を訪問した。モルドバに行くと言っている。夜9時、神戸の自宅に帰ることができた。実に車のメーターは2000キロ走行したことを表示していた。

長男は「フェリーが懐かしいな」と感想を述べた。私は一人で運転したのでとても肩と首が痛くなった。

その後、外務省外事課に提示している日程をこなした。

長野でロシア語を話せる今中由美子さんと合流して、タマラさんは長野国際交流クラブと信州大学付属長野小学校の大歓迎を受け、いくつかのプロジェクトを持ち帰った。神戸でも歓迎され農場、農業公園、ポートアイランドの新交通システム、大安亭市場のバザー会場などを視察した。めまぐるしい3週間だった。当時はルーマニア語を話せる人が身近にいなかったのでロシア語で通訳したのである。

8月31日タマラさんはモルドバに帰った。「日本に来たことは、おとぎ話の絵本を読んでいるようだった。今その最後のページを読み終えて閉じる」という感想を残して。

第7回神戸クラシック音楽祭が開催された(3月5日)

神戸クラシック音楽祭実行委員会(代表・曾根昭十四)が主催して兵庫県民会館9階ホールで約250名の会場が埋め尽くされた。今回はモーツァルト像建設20周年記念のコンサート。モーツァルト像は1991年神戸東遊園地に建設された。

コンサートの後地階のレストランで、曾根昭十四著『暦〜千年の孤独〜(日本文学館出版大賞ノベル部門特別賞)出版記念パーティが開かれた。本には侑霞先生の挿画10点が収録。

侑霞先生が個展を開催(4月14日から神戸元町で)

「モルドバドキュメンタリー2011」の表紙絵を描いている侑霞先生が個展を開催する。タイトル等詳細は次号。

日時:2011年4月14日から19日まで

場所:元町商店街1番街「シラサ」ギャラリー2階

住所:神戸市中央区元町通2-7-5(地図を下記に示す)



駐ウクライナ日本大使館『モルドバ週報』から

ウクライナの日本大使館のホームページに『モルドバ週報』が掲載されている。日本語でモルドバの現在を読むことができる。最近の記事から一部掲載する。

平成23年2月15日号【2月5日~2月11日】から

・10日、ルプ大統領代行は、AEIの総意であるならば大統領選挙立候補を辞退して政党と関係のない候補者に賛成する用意があるが、その場合は憲法改正を行い大統領の権限を大幅に制限する必要がある旨発言。

・11日、フィラト首相及びヴォロニン前大統領は、先週末に大統領選出に向けた二者協議を行った旨公表。ヴォロニン前大統領は、自由民主党との連立形成を排除していないとし、近日中にフィラト首相と再度協議を行う旨発言。これに対し、ルプ大統領代行は、かかる協議は共産党が目論むAEI崩壊につながるおそれがある旨懸念を表明。

・7日、グレチャニ元首相及びドトン元第一副首相兼経済相(共に共産党所属)は、非効率的な国家運営のために、物価の急激な上昇及び公共料金値上げを余儀なくされている旨内閣を非難。これに対し、ヴォルニツキー首相補佐官は、同問題は公的機関の癒着及び汚職の蔓延等の共産党政権の負の遺産によって引き起こされている旨反論。